

第2回ファシリテーションスキルアップセミナー概要・報告 (R7.12.1)



1. 概要

主催	長崎県教育庁高校教育課
場所	長崎県庁行政棟302/303/304会議室
対象	○探究活動の更なる充実を目指している学校の教職員等 ○生徒のやる気を引き出したい教職員等 (※対面61名、オンライン24名 計85名参加)
日程	令和7年12月1日(月) 10:15~11:45 講義・演習「探究を改めて考える」 講師:山下 真司 氏(ベネッセ教育総合研究所主席研究員) 12:45~14:00 ワークショップ①「ファシリテーション」 講師:早川 加恵 氏(国家資格キャリアコンサルタント) 14:15~15:45 ワークショップ②「生成AIの利用と、生徒の伴走」 (宮崎県立宮崎東高等学校定時制夜間部 教諭)

2. 開催の目的・思い



○探究的な学びの意義を改めて考えるとともに、生徒が自分の良さや可能性を認識し、豊かな人生を自ら切り拓こうとする力を身につけるために必要な教員の伴走のあり方を考える機会とする。

○参加者が様々な実践や好事例を知り、自校における教育活動の見直しや更なる深化、そして自らの指導観を見直す契機にする。



3. 講義・ワーク概要



○講義・演習 「探究を改めて考える」

- ・探究の意義:「自分なりの問い合わせを立て、自分なりの仕方で、自分なりの答えにたどり着く学び」
- ・現状の課題:生徒の抵抗感:どうにかそれっぽくやればいい。(発表当日に欠席する生徒も。)
一部教員へ負担集中。サイクルをきれいに回すことに偏りすぎ、生徒の主体性が弱まる危険もある。
- ・教師の役割:「評価」ではなく「フィードバック」することと関心を持つことが重要。
 - ・理想的な伴走のあり方:問の芽を認め、背中を押すこと。
 - ・教科授業そのものを探究的にデザインし、生徒の進路や人生につながる学びを構築することを意識する。

○ワーク ①「ファシリテーション」

- ・ファシリテーションの4つの基本スキル①場のデザイン(環境づくり)②対人関係のスキル(広げる・引き出す)、③整理・方向づけのスキル(見える化)、④合意形成のスキル(腹落ち)

ファシリテーションは「答えを与える技術」ではなく、「生徒が自分で考え、納得し、決定するプロセスを支える技術」のことである。

○ワーク ②「生成AIの利用と、生徒の伴走」

- ☆プロセス重視の評価を継続し、失敗から学ぶ姿勢を育成する。
 - ☆AIツールの活用範囲を拡大し、論文作成・評価・フィードバックを効率化する。
- 【ChatGPT/Gemini】探究の課題設定補助として「問い合わせの例」「課題設定例」を提示。
プロンプト例:「あなたは哲学対話と課題設定の優秀な指導者です…」と設定し、生徒が出した題材に対して問い合わせや課題を生成。

【NotebookLM】論文やスライドを読み込み、そのファイルの範囲内で、要約・音声解説・動画生成を支援することができる。